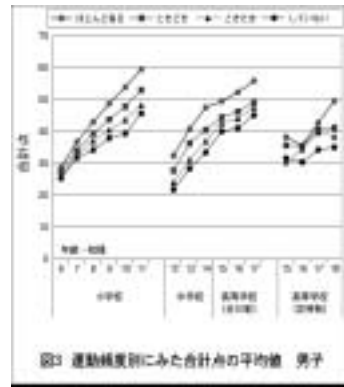


(5) **朝食摂取・睡眠時間の状況と体力との関係**
 本県児童生徒の朝食摂取及び睡眠時間の状況は加齢とともに乱れる傾向が見られ、朝食摂取と体力との関係を見ると、男女ともに、毎日摂取している児童生徒は、そうでない者に比べ、体力が高い傾向が見られました。(図4)

また、睡眠時間と体力との関係では男女ともに睡眠時間が短い児童生徒は、適度な睡眠をとっている者に比べ、体力は低い傾向が見られました。



(4) **運動を実施する頻度と体力との関係**
 本県児童生徒の運動する頻度は、男女とも13歳をピークに「ほとんど毎日」の割合が減少し、その後運動の頻度が少なくなっていくことが明らかになりました。さらに、運動実施頻度と体力との関係を見ると、運動頻度の高い児童生徒の方が、合計点が高いことが示されました。(図3)

このように、運動・朝食・睡眠の習慣が体力に影響を及ぼしていることが明らかになりました。

3 調査結果からみた今後の課題等

①今日の児童生徒の体力の低下は、単に測定種目の数値の低下だけでなく、運動機会の減少、健康3原則の乱れといったさまざまな体の問題を包含しているものと考えられます。その解決にあたっては運動だけでなく、食や睡眠といった基本的な生活習慣をトータルにとらえた改善が必要であると考えられます。

②それらを踏まえ、児童生徒の体力を向上させるためには、学校における体育・保健体育の授業を充実させることはもとより、休み時間・放課後等を活用した身体能力を高めるためのプログラムや動きづくりを、計画的・継続的に導入していくことが大切です。さらに、運動実践と併行して、規則正しい食事、適度な睡眠の確保といった基本的な生活習慣の改善への取組も重要です。

③また、学校での実践とともに、保護者や地域住民が児童生徒の体力の実態を認識することが不可欠で、学校・家庭・地域の連携を通して体力の向上のための取組を進めていくことが一層求められると考えます。

○おわりに
 今年度、4回にわたり「たくましい体をはぐくむ健康・体力づくり実践事業」に関する内容をお知らせしてきました。来年度より各学校における「健康・体力づくり一校一実践運動」が本格的にスタートいたします。各学校では、校長先生のリーダーシップのもと、学校全体の取組として、課題解決に向けた実践が展開されるよう期待しています。

平成18年度 主なイベント予定

平成18年度も各館で様々なイベントが実施されます。仕事に趣味に、是非ご利用下さい。

施設名	タイトル	概要	開始・終了
図書館	県立施設開放文化講座「山梨人物百科第4期-第6期」	様々な分野の中で、山梨に関係する人物をピックアップして多様な視点で取り上げる連続講座。	2006/6/16 ~2006/6/18 2006/8/18 ~2006/8/20 2006/11/17~2006/11/19
	資料紹介展示 第1回-第4回	テーマ別に資料を紹介する展示会。こどもの本、郷土の出版物、時事の話題などからテーマ設定し開催する。	2006/4/23 ~2006/5/28 2006/6/9 ~2006/7/30 2006/9/15 ~2006/11/19 2007/1/31 ~2007/3/25
美術館	柳宗悦の民藝と巨匠たち展	柳宗悦(1889-1961)が蒐集した民藝コレクションを中心に、版画の棟方志功などの作品を併せて展示。	2006/4/15 ~2006/5/21
	ドイツ表現主義の彫刻家 エルンスト・バルラハ	日本に強い憧れと関心を持ち、影響も受けたドイツ表現主義の代表作家のバルラハの、日本での初の本格的な回顧展。	2006/6/3 ~2006/7/17
県立博物館	開館記念特別展「よみがえる武田信玄の世界」	開館を記念して初の本格的な企画展で、山梨を代表する人物・武田信玄の実像に迫る。	2006/3/28 ~2006/5/14
	開館一周年記念特別展「甲斐の信仰と美術」	国宝、重要文化財など、山梨を代表する仏教美術品を展示する。	2006/10/14~2006/11/20
文学館	企画展「辻邦生展」	山梨にルーツを求める「銀杏散りやまず」を中心に、作家辻邦生の生涯と作品を取り上げる。	2006/4/29 ~2006/6/25
	企画展「正岡子規と近代俳句展」(仮題)	病苦(結核)と闘いながら短い生涯(享年35)の中で、近代俳句・短歌、散文の革新を成した子規の足跡を辿る。	2006/9/23 ~2006/11/23
考古博物館	企画展「山梨の初期須恵器」	5世紀に朝鮮半島から伝わってきた焼き物を通じて、山梨の古代を辿る。	2006/4/22 ~2006/6/25
	第24回特別展「東国制覇の拠点-甲斐鉢子塚古墳出現の背景-」(仮題)	4世紀中葉に甲府盆地に出現した巨大前方後円墳の築造目的と、その後の日本史上での役割を解明する。	2006/10/7 ~2006/11/26

※ 日程については現時点での予定。

「社会教育活性化二十一世紀プラン」(公民館における異世代協働地域づくり推進事業)について

はじめに

現在、地域における人間関係の希薄化やコミュニケーション不足などの問題を背景に、子どもたちだけでなく、大人も豊かな人間関係を築くことが難しくなっています。また、市町村合併によって地域の枠組みが変化していく中で、従来の地域にある歴史、伝統、文化の継承や様々な地域活動など、住民が主体的に参画した個性豊かな地域づくりを推進することが重要になっていきます。また、年代や立場を超えた多数の地域住民が集い、情報交換や交流等を行うことができる拠点を形成する必要があります。

こうしたなか、県教育委員会では、文科科学省より「社会教育活性化二十一世紀プラン(公民館における異世代協働地域づくり推進事業)」事業を受託し、以下に示す取り組みを行いました。ここでは、本事業の概要についてお知らせいたします。

事業内容

○県社会教育活性化推進委員会の設置

全県的な社会教育の活性化に向けた委員会として、研修会の実施や、モデル事業の総合的な調整等を行いました。

○県社会教育活性化推進研修会の実施

全県的な研修会を実施し、千葉大学教育学部の長澤成次教授による講演会やモデル事業を行った四地域の事例発表や意見交換によるシンポジウムを実施しました。

○モデル事業の実施(四市町に再委託)

《山梨市フィールドミュージアム推進事業(山梨市)》

地区公民館と連携し、民家などの地域資源調査や中央公民館と連携したパネルディスカッション及びウォークの実施、またそれらの準備や反省などの会議を行いました。



《小野神楽子まつり学級(都留市)》

三世代の組み合わせによるグラウンドゴルフ大会を実施しました。地域の施設と指導者を活用し、スポーツを通して異世代間の連帯感を深める中で、子ども・大人・高齢者に関わった地域づくりを推進しました。子どもは、高齢者から知恵とやさしさ、地域の人間関係を学び、親は、家庭教育だけではカバーできない地域の教育力を学び、高齢者は、子どもたちに教えることによって生きる力をもたらえたのではないかと思います。

下小野・中小野・上小野三地区の昔から引き継がれてきた伝統芸能お神楽を復活させるため、地域の高齢者を師匠として地域の子どもたちにお神楽を継承することにより、青少年の健全育成、地域行事への参加を促し、地域活動の活性化を図るとともに協働の

・地域資源調査

市内十一か所の地区公民館を中心に、地域資源の分布及び残存状況を調査しました。

・パネルディスカッション

地域資源の貴重性や文化的景観に対する考え方を学ぶため、学識者や先進地の経験者を招いて公開討論を行いました。

・ウォーク

一つの地区をフィールドとして、地域資源を結ぶコース設定を行い、市内外から広く参加者を募ってウォークイベントを開催しました。各ポイントの解説及び市内外へのPRを通して、スタッフ自身の意欲とスキルの上りも図りました。

《三代グラウンドゴルフ大会(北杜市)》

まちづくりを推進しました。

《あいさつ運動推進事業(市川三郷町)》

地域住民が一体となって、「あいさつ運動」(街頭活動、標語づくりなど)を行いました。学校における取り組みの中では、小中学生にあいさつ運動に関する作文、ポスター、標語等を募集し、優秀な作品は、区内回覧、新聞(公民館だより)などで周知し、さらに地域の敬老会において発表するなど広く啓発を行いました。また、これまで公民館活動の事業の一環として住民にあいさつ運動を啓発してきた成果を今後の活動に活かすため、地域住民の子どもたちへの接し方や様々な事例などを大人の視点からの情報として募集し、寄せられた意見などと合わせて地域に発信しました。



おわりに

本事業の実施により、子どもと大人、高齢者が協働して地域づくりに関わることで、異世代間の連帯感が強まり、地域社会の活性化に結びつくことを期待しています。

よみがえる 武田信玄の世界

— 開館記念特別展「よみがえる武田信玄の世界」 —

— 県立博物館 —

博物館が開館してからおよそ五ヶ月、開館時には、企画展「やまなしの道祖神まつり」を開催し、山梨を代表するお祭りを紹介いたしました。これまで、多くの皆様にご来館いただいております。

さて、山梨では、桃の季節が近づいてきました。山梨を代表する人物である武田信玄は、一五七三年（元龜四）四月十二日に、その激動の生涯に幕を下ろしました。現在も県内では、この時期に信玄を偲んでさまざまな行事が行われています。

山梨全体が信玄一色となるこの時期、博物館では、開館記念特別展「よみがえる武田信玄の世界」を開催いたします。

信玄は注目される人物ですが、県内で信玄をテーマとした大きな展覧会は、これまであまり開催されませんでした。最も身近な人物でありながら、彼のことを知る機会は少なかつたのではないのでしょうか。

川中島の合戦に代表される信玄の戦ぶりは、後世まで語り継がれ、江戸時代以降、さまざまな書物や絵画が作られました。また、彼の治世は、長く甲斐の人々の拠り所となり、甲斐独自の諸制度が作り上げられました。今でも観光や産物に、信玄の名が冠されることも少なくあり

ません。

そして、後世の人々が信玄を語れば語るほど、実像とは異なった信玄のイメージが創り出されました。

この特別展では、現在に残される古文書、絵画、武具などによって、武田信玄の実像に迫ってみたいと思います。また、現在私たちが抱くような信玄のイメージが、どのように作られてきたのかを探っていきます。

気になる展示内容ですが、次のような構成を予定しています。



土佐光起筆「武田信玄画像」（当館所蔵）

まず、「信玄の素顔を探る」では、戦国時代に描かれた信玄の肖像画や古文書をとおして、信玄の実像を考えます。高野山に伝わる有名な

信玄の画像をじっくりとご覧いただきたいと思っています。また、甲斐を治める政治家としての信玄、信玄の祈り、信玄の家族などについて紹介します。

「信玄の戦場」では、川中島合戦図屏風や武具をとおして、武田家の戦争の様子を紹介いたします。川中島合戦図屏風は、山梨では初公開となるものも出品される予定です。また、信玄や勝頼が奉納した甲冑、太刀などをとおして、戦場に赴く武将の姿を想像してください。

「楯無鎧」では、武田家代々の家宝として伝えられた楯無鎧のかつての姿を紹介いたします。博物館では、甲州市菅田天神社に伝わる国宝「小桜韋威鎧 兜・大袖付」（楯無鎧）の復元制作を行いました。制作の過程で明らかになった点などをあわせて紹介します。

「信玄が生きた戦国の世」では、信玄が活躍した時代がどのような時代であったか、そのころの甲斐国はどのような状況にあったかを紹介いたします。戦乱、災害、開発、さまざまな視点から、戦国時代を考えたいと思います。

最後の「信玄伝説をたどる」では、現在に至るまで、信玄が人々にどのように受け止められてきたのかを探ります。江戸時代以降、信玄を尊敬し、信玄に思いを馳せた人々が残した資料を紹介し、現在に至る歴史を考えます。

県内外から信玄に関するさまざまな資料を集め、開館記念にふさわしい特別展を計画しております。ぜひご期待ください。

◇ 開催期間 三月二十八日～五月十四日

らくがき



「めぐりあわせ」

寺西 修

私は毎週月曜日と金曜日の夜7時から、大月剣道スポーツ少年団で剣道の指導をしています。4年前、新採用教員として大阪から初めて大月市にやってきました。右も左も分からない中、大月東小学校の体育館で剣道をしていると小耳にはさみ、運動不足解消のためにと見学に行ったのがきっかけです。指導者の先生に「お仕事は？」と尋ねられ、「教員です。」と答え、「子ども達の指導を！」とたのまれました。私の父と変わらない年齢の大先輩の言葉に、「ハイ！」と即答。保護者、指導者の先生方の皆さんが、県外出身の私を快く受け入れて下さいました。任されたのは5歳から11歳までの子ども達。「右足が前、左足が後ろ」と言葉で説明しても5歳の子にとっては意味が理解できず、すり足の練習を少しすれば「せんせい、あたまがいたいので〜」、「せんせい、つかれた〜」の連続。それでも、素振りをしている年上のお兄さんお姉さんたちと並んで、自分の身長と変わらない長さの竹刀を負けじと振っています。そんな姿を見ていると、私に剣道を指導して下さいた先生方はどんな思いで指導して下さいたんだろう…と、幼い頃が懐かしく思い出されました。今は自分自身剣道を通じて得た多くのものを、故郷から遠く離れた地で、今度は私が返す番と考えながら子ども達と汗を流しています。

(やまびこ養護学校)



二流の挑戦を通して

内田 大介

富士河口湖高校漕艇部は昭和56年に創部されましたが、今までに全国制覇5回、全国入賞30余回という実績を上げております。しかし、競技実績はあくまでも結果であり、目指すところは社会に貢献する人材の育成です。

現在、卒業生は医学・教育・行政など多くの分野で活躍しています。在籍する部員の大半は競技未経験者であり、経験や自信のない生徒を心身共に全国レベルに引き上げる事は容易ではありません。日々の指導で、文武両道実現のための厳しさを生徒に求めています。これは「やると決めたことは、どんなことがあってもやり遂げる」厳しさであり、自己管理無くして実現できるものではありません。この根幹になる部分は生徒が理解できるまで、特に繰り返し示教しています。

私は指導者の真の実力とは、二流を一流に押し上げることでありと確信しています。これはスポーツ活動の面でも学習・進路面でも全く同じことが言えると思います。教育を実践する上で情熱を持って指導に当たることはもちろんです。しかし、その情熱が空振りしないように、常に個々の生徒を理解することを大切に、これからも指導にあたりたいと思います。

(富士河口湖高校)

「柳宗悦の民藝と巨匠たち」展

県立美術館

会期 2006年4月15日(土)〜5月21日(日)
会場 特別展示室
観覧料 一般1000円

柳宗悦(一八八九〜一九六二)は「民藝運動」の創始者、推進者として知られています。彼はまた、「民衆的工芸」即ち「民藝」に美的価値を認め、その発展に尽くしただけでなく、芸術、宗教、社会に關しても独自の思想を展開した思想家の一人でもあります。

本展では、柳に見出された「民藝品」約一五〇点を通して彼の美意識を紹介するとともに、近代日本を代表する芸術運動であった「民藝運動」に改めて光を当てるものです。また、「民藝運動」を共に推進した陶芸家の富本憲吉、バーナード・リーチ、濱田庄司、河井寛次郎、型絵染の芹沢銈介、木工の黒田辰秋、板画の棟方志功らの作品も紹介します。さらに、朝鮮陶磁の美的発見者であり、その魅力を柳に伝えた本県出身の浅川伯教・巧兄弟の足跡も振り返ります。

講演会

演題 「民藝の巨匠たちと朝鮮」柳宗悦と浅川兄弟を中心に

講師 高崎宗司(津田塾大学教授)

日時 5月4日(木・祝) 午後2:00〜

会場 総合実習室(申込み不要、聴講無料)

連続講座 山梨出身の浅川兄弟と柳宗悦について、一回に渡り興味深い切り口でお

話しします。

日時 4月23日(日)・4月

30日(日) 午後2:30〜

会場 総合実習室

(申込み不要、聴講無料)



バーナード・リーチ《ガレナ釉筒描獅子文大皿(セント・アイヴィス)》1925年 日登美美術館所蔵